

森のかぜ No.4

2025年1月発行

森に親しむ野外講座
ニュースター

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

ニュースターNO.4をお届けします

2023年のNHK朝ドラ「らんまん」のおかげで地味で目立たなかったシダ類が多少は親しみの持てる植物になったような気がしています。

いかがなものでしょうか？
今回のニュースターNO.4ではシダ植物の魅力を取り上げます。どうぞお楽しみください。



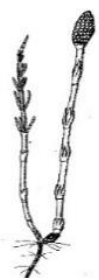
シノブの苔玉

シダ植物の魅力 ～規則正しく、適応力が高く、長命で幸せを呼ぶ～

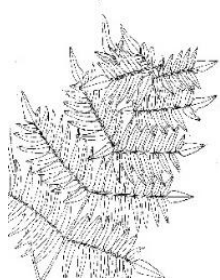
あるシダの観察会、70代の女性からこんなお話を聞きしました。「母親がお嫁入りする際に持って来たシノブがまだ生きていますよ」。調べてみるとシノブの名は、着生シダで土のない所でも耐え忍んで生きていることからきているとのこと。花言葉では葉の規則正しいつき方から「誠実」、「永遠の幸せ」の意味のあることを知りました。両親は娘に嫁ぎ先で耐え忍んで幸せになって欲しいとの願いから、嫁入り道具の一つとして持たせたのかと改めて感動しました。生育地は市街地、平野、山林、岩場、樹木、海岸、水辺などで、適応力の高いことがうかがえます。

○山菜として利用されるシダ

山菜としてはスギナの胞子茎であるツクシは卵とじにすると格別です。定番はゼンマイ、ワラビ、そして胡麻和えなどにするとおいしいクサソテツなどです。



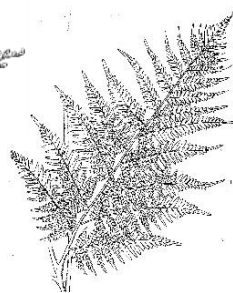
[スギナ]



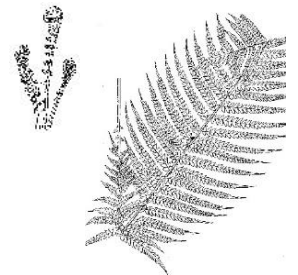
[ゼンマイ]



[ワラビ]

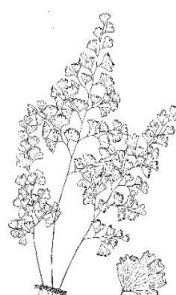


[クサソテツ]



○市街地、野原などでよくみかけるシダ

市街地の溝などでは最近多くなっているハウライシダ。栽培しているものから逸出したようです。やや湿気た場所に生育するミゾシダやイノモトソウ。また、葉の先端が穂状になるカサカサした感じのホシダ、軒下や樹上に生育するノキシノブなどです。



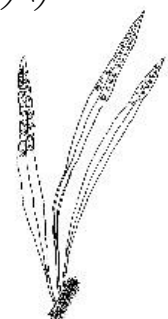
[ハウライシダ]



[イノモトソウ]



[ホシダ]



[ノキシノブ]

○山地で見られるシダ

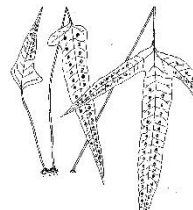
冬に葉が紅葉するホラシノブ(洞忍)、暖地で増殖していて葉面が五角形のナチシダ(那智羊歯)、孢子嚢群が星状のミツデウラボシ(三手裏星)、新芽が猪の足のよう毛むくじゃらなイノデ(猪手)、濃緑色で精悍な感じのホソバカナワラビ(細葉鉄蕨)、葉面に苗(無性芽)をつくるコモチシダ、羽片の縁に鋸のような鋸歯のあるノコギリシダ、冬に花のような孢子葉を出すオオハナワラビなどがあります。



[ホラシノブ]



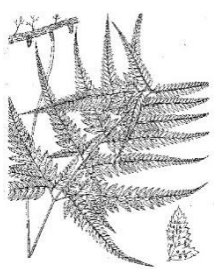
[ナチシダ]



[ミツデウラボシ]



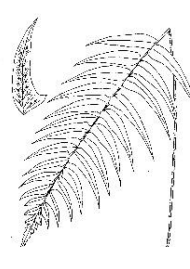
[イノデ]



[ホソバカナワラビ]



[コモチシダ]



[ノコギリシダ]



[オオハナワラビ]

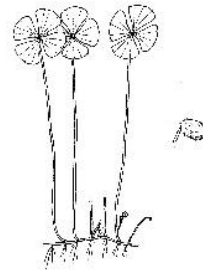
○水性のシダ

水中または水の出入りする場所に生育していますが、多くはありません。

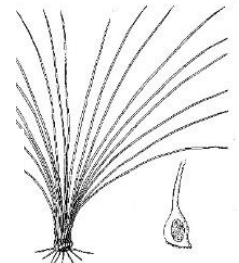
[ミズワラビ]



[デンジソウ]



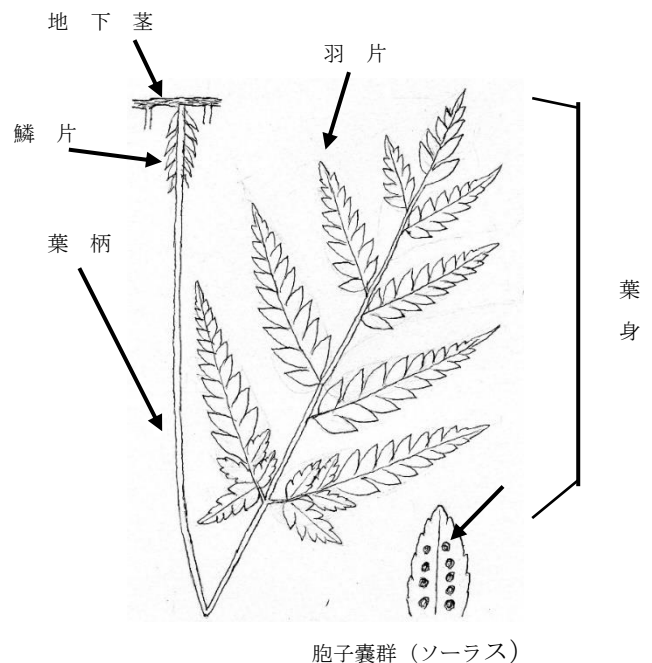
[ミズニラ]



○シダ植物の花・孢子嚢群と形態

シダ植物は一般的な植物と違っています。花(種子)に相当するものが孢子です。植物は花が咲いて実を結び種子で殖えますが、シダは孢子です。この孢子の集まりが孢子嚢群(ソーラス)です。花も形状、大きさ、花色など様々ですが、シダも同様です。葉裏につく孢子嚢群の形状などはこの特徴を表しています。シダには一見茎がないように見えますが茎は地下茎としてあります。このため乾燥に耐えるようになっています。

また、葉の鋸歯は規則正しくなっています。



シダ植物の模式図